

# 教務だより

2017年8月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 地域密着ということ

茗溪塾塾長 宇野雅春

時計の話をしてします。昔から、時計をなくす癖があり、若いときに持っていた時計はことごとく紛失。一番高価だった時計は、事故の振り替え輸送で乗った満員電車で揉まれているうちに降りてみたらなくなっていました。窓ガラスが割れるほどの混みようで、時計のことなどすっかり忘れていたというのが、本当のところですよ。

その後、大事と思えば思うほどに時計はなくなり、20数年前の誕生日にその頃幼稚園児だった娘と妻が選んだセイコーのごくごく普通の時計だけが残りました。一度完全に動かなくなり「分解掃除」をしてもらったことがありました。また動くようになってしばらく使っていましたが、45周年記念に塾で記念に作った時計を使うようになってからは、再びその時計のことはすっかり忘れていました。でもその記念の時計も大切と思えば思うほどにやはり運命のように、目の前から消え、何度探しても見つからない結果になってしまいました。そのとき例のセイコーの時計は無造作に机の引き出しにあり、止まったままの状態で放置されていました。20年を経ているのだからもう動かないと思ったのですが、駅に出るついでに一番近い時計屋さんに行って持ったのです。

すぐに修理に取りかかった時計屋さんがふたを開けて、さりげなく「20年前にうちで修理したものです。」と言いました。驚いたことに時計の中に小さな紙切れが入っておりそこに修理年月日が小さく几帳面な字で書いてあるのです。幸い電池が切れているだけでしたので、時計はすぐに動きはじめました。駅前には時計屋さんが2軒あり、20年の時を経て偶然に入った時計屋さんが同じ時計屋さんであったという偶然もそうなのですが、何か出てきた紙切れに職人の責任感のようなものを感じて、少しうれしくなりました。自分の時計が、守られているような気がしたのです。

地域密着の塾であれば、子供が成人するまで見守ることが出来ると思いついていた私は、成長して変わってしまう生徒に戸惑い、また東京という街のスケールの大きさに気づかず、結局はあんなにたくさんいた教え子達がどこに行ってしまったのかと戸惑う時期が長くありました。実際教え子が、親として来ることも多くなりましたが、多忙な日々の中では、ただ追われるばかり…。整理もつかぬまま日々過ぎゆくのみ…。

地域密着というのは、多分先の先まで見据えた指導をすることではないかとおもいます。良い指導ばかり出来るとは限りませんが、目先の効果に走るのではなく、本当にその生徒の実力を伸ばしてやること。指導した方向性がその生徒にとっても良いものであること…。実際、教え子で塾に専任として勤めてくれた人もいます。以上の話を、先生をしている教え子の1人にしながら「それにしても、20年を過ぎてもまだ動いているセイコーの時計というのは凄い！」と言ったら、「祖父がセイコーに深く関わった人です。」という返事が返ってきました。「つながり」ということをと改めて思いました。